

教育研究グループ支援「研究成果報告」詳細

東京都学校保健経営研究会

・学校経営を視点とした健康教育の推進

1 平成25年度の年間活動の概要

	研修会実施日	内容・講師	参加人数
第1回	6月22日(土) 14:00~17:00 杉並区立杉並第四小学校	「授業をみる視点と学校経営への参画」 講師：国立市教育委員会 指導課長 渡辺 秀貴 先生	29名
第2回 (全日)	8月5日(月) 10:00~16:30 江東区立豊洲北小学校	「感情の育ちと教師のかかわり ー耐性を育てるかかわりを中心としてー」 講師：東京学芸大学教授 大河原 美以 先生	60名
第3回	11月30日(土) 14:00~17:00 江東区立豊洲北小学校	「特別支援教育と学校経営について ー第三次実施計画をふまえてー」 講師：東京都立港特別支援学校 特別支援コーディネーター 川上 康則 先生	24名
第4回	2月15日(土) 14:00~17:00 台東区立金竜小学校	「組織として取り組む学校危機管理対応について」 講師：東京都学校保健経営研究会 会長 台東区立金竜小学校校長 牛島三重子先生 (※大雪のため、中止)	

2 研究内容について

【第1回】 「授業をみる視点と学校経営への参画」

講師：国立市教育委員会 指導課長 渡辺 秀貴 先生

『今、求められる授業像と指導・助言の視点と学校経営参画の視点』という副題で講演をいただいた。「魅力ある授業づくり」の構成要素として、次の4つの「力」が必要であり、これらがバランスよく備わることで成り立つ。

- ① 児童・生徒を理解する力を高める
- ② 授業を構成する力を高める
- ③ 教材研究、解釈を深める
- ④ 指導技術を高める

そして授業を通して「自ら問題(課題)を見つけ(意識し)て、既習の内容や学習経験を活用して解決していく」という学び方を身に付けさせながら思考力、表現力を高めていくようにする。

さらに一つの授業の中で必ず、友達に音声表現する時間を2~3分与えることで、自己表現がで

きるようになっていく。この時も学習内容の本質にふれながら話し合うことをさせるようにもっていくと効果的である。

【第2回】 「感情の育ちと教師のかかわり ―耐性を育てるかかわりを中心として―」

講師：東京学芸大学 教授 大河原 美以 先生

育っていく中で、耐性（感情制御の力）が備わっている子どもは、多少のネガティブ感情をもっていても世の中でやっていくことができる。しかし現代は、「ネガティブ感情を安全に抱えられない」子どもたちが増えている。そのことが心身症などの身体症状やリストカットなどの自傷行為、キレる、暴力、暴言、いじめなどの様々な問題行動の根っことなっている。

では、どのように耐性が育っていくのか。それは言葉を発することのできない赤ん坊の頃から始まっている。赤ちゃんにとって「泣く」という行為は、必要な何かを手に入れるため、また命を守るために行う手段である。この行為に対して、母親に抱っこされることで安心が得られ、ネガティブ感情が処理されて、感情制御の基礎が脳内で作られていく。これができるさらに、母以外の人である、父や保育士、教師や援助をしてくれる大人との人間関係の中で安心が得られていくという経験を積み重ねていくことができる。しかし、最近では赤ちゃんの泣き声（子どもの求めること）を不快に思い、親が持ちこたえられず、DS やスマホなどのネガティブ感情の処理の道具を与えてしまうので、本当の安心を子どもは獲得できていないというのである。これを基に考えていくと、学校で起きている様々なことが、「なぜ、起きるのか」の説明が付き、納得することができた。非常に濃い内容であり、子育ての大切さと重要性を改めて認識する研修となった。

【第3回】 「特別支援教育と学校経営について ～第三次実施計画をふまえて～」

講師：都立港特別支援学校 川上 康則 先生

テンポのよい優しい口調で始まった川上先生の講演。長年、特別支援教育に携わってきた川上先生ならではの説得力のあるお話に私たちも、まるで生徒になったかのように引き込まれていった。

まず、特別支援教育とは、『「うまくいかない」ことがある子どもの、価値を高める教育』であること。また、リフレーミングによって「苦手」を「強み」にすることができ、ネガティブな行動も裏を返してポジティブな行動にみることで、その子の見方が変わり、自他を認める手がかかりとなる。

また、特別支援教育においては、『その人の「見方」を変えると味方になれる』というように、先生や友達の受け止め方が変わるだけで安心感を持てる子ども多いことから、人間理解に役立ちこの特別支援教育の視点を「授業改善」に活用することもできる。

そして、最も頭を悩ませる就学相談については、これまでたどってきた親子の歴史を理解したうえで、「人の心を変えようとする」のではなく「子どものことを真剣に考えているという心を伝えていく」というように、学校全体でどのように受け止めるか、計画をたてることも重要である。

最後に子どもが発してくる「お試し行動」については、次のように、大人が大人として振る舞うことで、子どもを混乱させずに済むことも忘れてはいけない。

- 1 堂々と 毅然に おだやかに
- 2 焦らず 慌てず あきらめず

【第4回】 「組織として取り組む学校危機管理対応について」

講師：台東区立金竜小学校長 牛島 三重子 先生

※ 大雪のため、中止